

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

アダムスキーを信じる人々が最も気にかけているのは、「なぜ真実が広まらないのか？」あるいは、「アダムスキーが伝えた真実は、今後どうなるのか？」ということではないでしょうか？真実というのは、広まろうとする力を持っています。しかし、地球上ではそれが起こらないのです。それは、人々が真実を求めようとする力が弱いこともあると思います。真実または真理を求めようとする心が無ければ、それにたどり着くことはないでしょう。

しかし、それ以上に問題なのは、宇宙探査の結果や異星人についての真相を広めない力が存在することだと考えられます。アメリカのある上院議員は、異星人問題はトップシークレットのさらに上にあると言っているようです。ようするに極めて重大な秘密なのです。

これはなぜかと言えば、アダムスキーが伝えた真実が、大国をはじめ多くの国々で是とされるなら、社会システムや経済界、エネルギー問題、さらには天文学や物理学、医学、宗教など多くの分野で疑義が呈され、社会がひっくり返ることになるからです。しかしこれは、真実に向けての変革ですから悪い話ではありません。問題なのは、今の世の中を形成してきて、そこから利益を得ていた人々が、その利益が得られなくなるということです。

これは、様々な分野を操る側の人々、闇の政府とかディープステートと呼ばれる存在です。最近では、多くの知識人がその存在を認めています。グローバリズムを推奨したのもその存在とされます。これが絶大なので、アダムスキーの真実は握りつぶされているものと考えられます。

それではこれからどうなるのか？ 端的に言えば、彼らスペースピープルが公然と出現することです。それが近づいているためか、アメリカや日本では宇宙軍を創設しています。「悪魔が、自分の時が短いを知り・・・」（ヨハネの黙示録）の状態です。その時は、おそらく地球上で大変なことが起こっているため、彼らの出現を拒む状況は起きない可能性があります。これは、私の長年の活動により理解したことなのです。私の希望的観測なのか、それとも夢のようなことが実際に起こるのか？ 今後を楽しみにしていただきたいと思います。

“言葉に注目”

< 印象というものは生命における最も精妙なもののだ >

『UFOの真相』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

これは、アダムスキーが、テレパシーについて質問を受けたことについての回答の一部です。そして、この印象について次のように説明しています。「船が沈む運命にあるとき、ネズミたちは真っ先に逃げ出す。彼らは、『船が沈もうとしているから逃げ出せ』という感じ、衝動、印象といったものを起こすのだ。」と言います。そして「ところが人間は慌てふためいて自分を失い、どうしようもない状態になる。これはネズミと同じ感じに従わないからだ。」ということです。

ネズミが従った“感じ”に素直に従うことの重要性を語ったものです。これは例として良く言われていますが、地震や大洪水などの自然災害から身を守る術を教えているように思います。結局、これを私たちが感じるためには、訓練が大切であると伝えています。

「生命の科学」学習のポイントPart116

今回は、本講座の内容が終了し、最後の『著者あとがき』です。

初めに、『生命の科学』講座はスペースブラザーズによって伝えられた知識です。」と書いています。つまり本講座が、「宇宙の友人たち」によって地球へもたらされたことがはっきり示されているのです。この「著者あとがき」は、大変重要なところですが、IGAPの本部であるアメリカから取り寄せた「SCIENCE OF LIFE STUDY COURSE」には記載がありません。しかし、日本で翻訳出版する際には、この部分が確かに存在していたものと思われま

す。続いて、「この世界をよき社会にしようとしている彼らブラザーズに協力する人はだれでも彼らからの援助を受けるでしょう。」と書いています。長年アダムスキーの伝えた事柄を普及しようと、あるいは消滅しないように努めている人々は、この実感があるのではないのでしょうか？確かに援助を受けるようになるのです。まずここで、アダムスキーは、真実を伝えていると理解されます。

さらに、「だれかが人々とともに団体を結成して、かなりうまく運営していると、他の対抗者がデマを飛ばして動揺を起し、デマ流し屋が、その団体を乗っ取ろうとした例がこれまでに少なからずありました。」と書き、これは避けられるとして、「この種の研究活動を行いたい方はいつでも新しいグループを始めることができます。」と伝えます。実は、この言葉があることから、当会は、平成8年（1996年）7月1日に創設したものです。

それらのグループは、「宇宙的な生命の原理の研究を扱ってください」。これは、ブラザーズによって示唆されたことだと言います。具体的には、「生命の科学」の研究ということになります。また、「宗教や神秘主義者を促進する・・・人を避けて・・・」とあります。地球人の未熟さを解消し真実に向かう魔法の書として、今後とも「生命の科学」の研究が必要であると思います。

宇宙に“生きる”

<名言格言編116>

“御託を並べる（ごたくをならべる）”

これは、自分勝手な理屈をもっともらしく述べる様子です。また、不平や不満などをくどくどと言いつつ言い立てることを言います。言い分に一理ある場合もあるでしょうが、大方の意見に反すると、このように言われてしまうようです。心したいと思います。



Q：月には酸素があるのか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：地球よりかなり薄いものの大気があり、酸素もあるものと思われま

書物紹介

『闇を超えて、大調和へ』 矢作 直樹 著 (株)青林堂

著者は、東京大学名誉教授で医師です。前半では、アメリカ大統領選挙から見えるものや世界連盟の仕組みなどについて書かれています。後半では、魂の話や自ら体験した大母船目撃の話が書かれています。大母船は、2024年12月の山での体験で、頭上まで飛んできた大母船から、「励め。見守っている。」とのメッセージが来たようです。参考になる1冊です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2026年5月23日（土）、8月23日（日）、11月21日（土）午後1時30分より、台東区民会館第1会議室または特別会議室小。

【編集後記】

まずまずのペースで編集ができました。やることが多いので、うっかりできない怖さがあります。まあ、良かったです。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第116号>

発行日 令和8年3月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）